

3

月末カザフスタンのチタン工場TMP
P（チタンマグネシウムプラント）

の50周年記念式典への招待を受けた。友人のシルバン・ゲラー会長（67）から要請されたので万難を排して出席した。TMPは世界最大規模のスポンジチタン工場である。

1960年に設立された当時は世界中のチタン需要を1社でカバーできたという冷戦の落とし子であった。原子力潜水艦一隻あたり約2万トンの金属チタンが必要だったから、旧ソ連は世界最大の能力を有するモンスター工場をこの時代に設立したのだ。

シルバンとは確か80年ごろの中国広州交易会で会ったのが初めてで、90年、旧ソ連時代のカザフのチタン工場で偶然バッタリ鉢合わせした。聞いてみると彼はチタン産業の未来に着目していてカザフのTMPに賭けてみたというのだ。

さて、当時のTMPの社長バグダッド・M・シャヤフメトブは徹底した頑固な人物で外国人と会うことさえ嫌っていた。後で聞いた話だが、なぜか日本人のヒゲ男（私）と、ベルギー人のヒゲ男（シルバン）だけが気に入ららしい。

バグダッドは私に日本市場を任せ、シルバンに欧米市場を任せた。その後、旧ソ連の崩壊によりTMPの経営は一気に悪化した。日本からの多額の融資やシ

ルバンからの出資で奇跡的にサバイバルを果たした。その後の発展は破竹の勢いで、TMPのチタン原料が世界を席捲した。

96年ごろ、TMPの経営方針は民営化に向かっていた。旧ソ連の崩壊から僅か5年しか経っていないチタン工場の民営化に敢然と挑戦し、TMPへの出資を決断したのがシルバンである。最終的に60%の出資を成功させた。結果としてシルバンの目論見は当たり、一介のトレーダーからバグダッドとの共同経営者にまで上り詰めた。

しかし、正にTMPが絶好調の経営環境になった2011年にバグダッドを病魔が襲った。全生涯をチタン工場に捧げたバグダッドは治る見込みの少ない癌に侵されたのである。

トレーダーから生産者へ転身

シルバンがトレーダーではなく生産者を志向したのは、レアメタル市場がコモディティ化するなかで、付加価値をつけて新しい市場を開拓しなければ生き残れないと判断したからだ。80年代には電子材料や機能材料の分野でレアメタルを扱っていたピュアトレーダー

AROUND THE WORLD

山師の手帳 中村繁夫 Shigeo Nakamura

第41回 シルバンとバグダッドと私 ～TMP50周年記念に寄せて～

写真・生津勝隆 Masataka Namazu



筆者の長年の盟友、シルバン・ゲラー 一会長

が90年代になると淘汰されるようになった。

シルバンは、旧ソ連崩壊の時期、金融危機の時期、リーマンショックの時期も乗り切るばかりでなく、逆境を利用してTMPの体質改善に努めた。だが、

危機は続く。

バグダッドが他界して最も厳しい時に未曾有のチタン不況が襲ってきたのだ。今年に入ってから石油価格の暴落の先が見えない環境でTMPの2万6000トンの能力のうち、現在は僅か3分の1しか稼動していない状態まで追い込まれている。

しかし、シルバンは、チタン市場の不況は一過性だと割り切っている。不況が続けば、普通の人間なら錯乱状態になってもおかしくはないストレスに襲われる。そんな中で激しい交渉を行わなければならない。それでもネゴが終われば、シルバンは可愛い笑顔を見せる。彼の持ち味はその独特のスマイルだ。彼は根っから商売が好きで、チタンが大好きなのだろう。そうでなければ、あんな晴れやかな笑顔ができるわけではない。プロセスを楽しんでいるのに違いない。シルバンは私の商売の師匠である。

なかむら・しげお レアメタル専門商社、アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）社長。日本におけるレアメタルの第一人者。世界100カ国を訪問し、世界制覇を目指す。

